

青少年育成 かすみがうら市民会議 広報誌

vol.6



KWCS「ぶにっとスクイーズ作り方講座」集合写真

● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



市民の皆様方には日頃より青少年育成かすみがうら市民会議にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

本会は、市民の皆様方と関係各種団体のご協力をいただきながら、最大の目的である「次世代を担う青少年の健全育成」を十分に達成するために様々な活動を展開しております。

市民総ぐるみで青少年健全育成に取り組むため皆様方からご協力いただきました会費及び協力は、毎年7月に開催されている青少年育成を考えるつどいを始め、青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）、ウィークエンド・コミュニケーション・スクールなどの主催事業、青少年相談員連絡協議会、市子ども会育成連合会、市立中学校立志行事などへの補助金交付、また広報事業などへ大切に活用させていただいております。

さて、青少年育成かすみがうら市民会議としての広報紙を作成するにあたり、中学生が日頃から考えている素直な願い、将来へ向かって力強く進んでいく思い、また、日頃から活動していただいている各種団体の地道な活動をご紹介いたしたく発行する運びとなりました。

結びにあたり、青少年育成事業に一層のご理解をいただき、本会が発展していくための、ご意見等がございましたら、かすみがうら市教育委員会生涯学習課にご一報いただければ幸いです。

今後とも、市民の皆様方には「地域の親」として子どもたちを温かく見守っていただき、より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。



回 青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。

その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

回 市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するための各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

回 市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校、関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

回 今年度の事業

青少年育成を考えるつどい

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業

青少年健全育成に関する広報活動

新成人への記念品配付及びオープニングイベント

親子つり大会・かすみっ子まつりへの協賛（市子連事業）

青少年相談員連絡協議会の巡回・啓発活動への助成

中学校立志行事への助成

高校生会への助成

回 会費について

会費の納入は、毎年6月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様をとおしてお願いしており、一般の方には年額200円、賛助会員の方には年額1口以上（1口1,000円）を納入いただいております。

..... ～推進している運動をご紹介します～

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを初めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、これらのことを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるのです。

会員加入にご協力をお願いします。



青少年育成を 考えるつどい

平成29年7月15日（土） あじさい館視聴覚室で、青少年健全育成に対する理解と関心を深めることを目的とした『青少年育成を考えるつどい』を市PTA連絡協議会との共催で実施しました。

第一部 中学生の主張大会

第一部の「中学生の主張大会」では、市内各中学校の代表者6名が、日ごろの生活の中で感じたことや考えていることを発表しました。それぞれの主張文をご紹介します。

入試制度から みえるもの



下稲吉中学校 3年
村田 実優

「へー大学入試制度が二〇二〇年から変わるんだ……え!？」ニュースを見ていた私は、思わずその画面に釘付けになりました。「ちょっとお母さん!二〇二〇年って私が受ける時だよね!？」どうやら、オリピックだと浮かれている場合ではないようです。

その時から、テレビや塾などで「大学入試改革」というワードが飛び交うようになりました。不安に思った私は、「どう変わるのか」ということを調べたところ、「表現力」というワードが目にとびこんできました。

何故、今の時代、表現力を学ぶ必要があるのでしょうか。その理由は、若者のコミュニケーション能力が低下しているからだと思われます。確かにそのような話は、ニュースで聞いたり本で読んだりしたことがあります。私自身も、ゲームに没頭し過ぎて、家族との会話が減っていると思うときがあります。友達とのメールのやりとりで、「上手く伝わっていないのかな?」「怒っているのかな?」と感ずることもしばしばです。

コミュニケーション能力の低下は、ネットの普及、スタンプなどで簡単にやりとりができるようになったこと、自身が傷つくことを恐れるあまり、人と直接会話するのを避けるようになったこと、が原因だと言われています。コミュニケーションはどの世界においても必要になってくる力だと思えますし、大人になって社会に出ると、今よりもさらにその力を求められる可能性があるでしょう。では、どうしたらこの力を向上させることが出来るのでしょうか。

その一歩は単純なことで良いと思います。友達や家族と「これとあれ、どっちが好き?」「このキャラのどういうところが良いの?」など、自分が好きなことについて語ってみる。そこから、「この意見どう思う?」という少

し難い話題に入っていく。学校の授業には、グループの皆で話し合っ意見をもとめる、という時間があります。いつも聞き手になっている人も、ほんのちよつと「そうだね」と共感するところから、「こうしたほうがもっと良いんじゃないかな」というように一言言えるようにすれば、自然とコミュニケーション能力は身についてくるはず

です。表現の仕方にも色々なものがあります。言葉で表したり、表情や身振りを加えたり、絵や漫画で表現したりなど。どれが自分にとってやり易いのか、それがその場に合った手段なのか、そういうことを考えるのも、大切なポイントの一つです。

重要なのは、コミュニケーションは相手がいるからこそ成立するということです。相手の表情や行動を見て、お互いの意見をいかに分かりやすく伝えるか、だと思えます。自分の考えをしっかりと持ち、さらに他の人の意見に耳を傾け、より自分の考えを深めていく力も、必要なのではないでしょうか。

つまり、大学入試改革のキーワードだった「表現力」というのは、コミュニケーション能力を高めていこう、という政府の試みだったのです。従って、入試制度の変更をいたすに心配する必要はないのです。私達が日頃の生活の中でしている人とのコミュニケーションを、ちよつと意識してみれば、自然と表現力が身に付いてくるものだからです。

私は以前、人の意見を尊重すること

けにとらわれていて、友達に嫌な思いをさせてしまったことがあります。ですが、中学生になって人との関わり合いが増えると、それではだめなんだ、と気付くことが出来ました。今では、しっかりと友達の意見を聞いているつもりです。自分の視点からではなく、友達や先生方、家族からの視点を知ることのでかったものも多くありました。これからも私は、たくさんの人とコミュニケーションをとり、自分の表現力を磨いていきたいと思っています。

伝統文化と 現代文化



霞ヶ浦中学校 3年
桑原 真尋

「ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは」この歌は、平安時代に在原業平が詠んだ、「小倉百人一首」の中の歌です。皆さんは、百人一首を知っていますか。最近知ったという人も多いと思います。私は、小学校一年生から二年生までクラスで毎日、百人一首をやっていました。五時間目の前の、一試合がとても楽しかったです。担任の先生のすすめで、百人一首の大会に出たこともありました。

その大会は、県大会にもかかわらず少人数の大会で、競技人口が少ないのだと感じた大会でした。そして三年生になり、担任の先生が替わると、百人一首を見る機会も減り、せっかく覚えた歌もだんだん忘れていきました。しかし今、百人一首の知名度が上がってきているように感じます。そのきっかけは、百人一首を題材にしたマンガのアニメ化や、映画化の影響で百人一首がテレビで紹介されたりしたことだと思います。最近知ったという人もきっと、テレビやインターネットという人が多いのではないのでしょうか。アニメや映画には、百人一首の魅力だけでなく、声優や俳優、女優、映像、ストーリーなど、他にもたくさんさんの魅力があります。そのため、見ている人は、百人一首を学んでいるという感覚なしに、百人一首を知ることが出来ます。私も、久しぶりに百人一首に触れて、新たに興味がわいてきました。小学生のときは、ただ読まれた札を取るだけでしたが、アニメや映画から百人一首の知識を得ると、また違ったおもしろさに気付くことが出来ました。このように、日本古来の伝統文化が、現代の文化と混ざること、新たな魅力が生まれ、現代の文化として受け入れられることがあります。

皆さんは、最近テレビで将棋のニュースをよく見ませんか。私が最近耳にするのは「最年少プロ棋士」のニュースです。私と同じ年ということもあり、特に興味をもっていたのですが、そもそもなぜ、テレビで将棋が取り上げられるようになったのでしょうか。

か。テレビでは、人々が興味をもって見るニュースを取り上げるのが一般的です。将棋に興味をもたせたのは何だったのでしょうか。始まりは、ある動画サイトに将棋の試合の動画が多く投稿されたことがきっかけのようです。自由にコメントできるサイトだったため、その内容が試合の内容についてだけではありません。棋士のキャラクターについてや、昼食に何を頼むのかなど、ルールを全く知らない人でも将棋を楽しむことができたそうです。他にも、コンピュータと人間が対局する「電王戦」というものもあります。最新科学と人間が将棋をするということが話題になり、駆けつけた報道陣が他のタイトル戦よりも多かったそうです。インターネットの将棋への影響はこれだけではありません。皆さんは、今年の二月、初の外国出身の女流棋士が誕生したことを知っていますか。彼女は、インターネットで将棋の腕を磨いてきたそうです。また、彼女が将棋を知るきっかけとなったのが、日本のマンガだそうです。インターネットと日本のマンガが将棋界に新たな歴史を作ったのです。日本のアニメと将棋がコラボしたこともありました。そのときは、子供の将棋人気が高まったそうですが、私は世界でも将棋の知名度が上がったのではないかと思います。現代の文化や技術が日本の伝統文化を世界に発信しているのです。

百人一首や将棋以外にも姿を変えて、人気を集めている物があります。例えば、日本伝統の織物は、着物の需要が少なくなっている中で、ハンカチ

や小物入れに姿を変え、現代の人にも使いやすいものになっています。また、そうすることで、もとの織物にも興味をもってもらえることができます。現代の需要に合わせて、アレンジすることは、伝統をつなぐことにも、新しい伝統を作ることもなると思います。

日本の古き良き文化を支えているのは、現代の文化です。どちらも日本の誇るべき文化であり、未来に、世界に発信していくべき文化です。お互いの良いところを組み合わせながら、日本の新しい文化になっていくと思います。その文化を受け継ぎ、伝えていくのは私たちです。そのために私たちは、日本伝統の文化を知らなくてはなりません。そして、新しい見方で、私たちの未来を創っていきましょう。

明日を変えるもの



千代田中学校 3年
山口 結愛

子どもはよく喧嘩をします。自分の思い通りに行かず、相手のことを考えないからです。そんな子どもも、大きくなれば喧嘩をしなくなる。そう思っている人がほとんどでしょう。しかし、今の社会は残念ながら、喧嘩をする大

人たちがいます。個人的なものではありません。「戦争」のことです。戦争とは言っても、規模が大きくなった喧嘩にすぎません。今、戦争をしている大人たちに言いたいことは、「あなたたちがやっていることは、小さな子どもたちと同じことですよ。」ということです。もちろん、理由があるからしているのでしょう。しかし、どんな理由があろうと、人を傷つけることだけは絶対にしてはいけないと思います。もつと言うとすれば、子どもたちがやっている「戦争」の方が立派です。たとえ小さな子どもでも、言い争いをしながらも、相手をケガさせるのは悪いことだと分かっています。そして、どんなに喧嘩をしても、最後にはお互い素直に「ごめんね。」と謝ることが出来ます。

それに対して、大人はどうでしょうか。少しでも多くの人を傷つけよう。少しでも多くの人を苦しめよう。そんなことを考えているのではないのでしょうか。

私は、歴史の授業で多くの戦争を学んできました。昔からある戦争は、今もこの世界で続いている。そう考えると、とても恐ろしいです。「戦争」という言葉が、この世になかったら……。どれほど多くの人が幸せに暮らしていたでしょうか。どれほど多くの人が命を落とさずに済んだでしょうか。

そもそも、どうして戦争が起きるのでしょうか。子どもが喧嘩をしたとき、親は、喧嘩はいけないことだと教えます。すると、子どもは親の言うことを聞こうとします。つまり、親を信用し

ているのです。たとえ親の言った通りにすることが間違っているとしても、子どもはその通りにするでしょう。そんな信用している親が仮に、「この国はいけない。この国は敵だ。」と言ったとします。それを聞いた子どもはどう思うでしょうか。実際に見たわけではないのに、その国は悪い国だと思い込んでしまいます。結果、子どもたちが大きくなっても、お互いに悪いイメージを持ってしまったため、戦争が起きてしまうのです。

今までの話を含めて、この世から戦争をなくすにはどうしたらよいでしょうか。答えは簡単です。相手の気持ちになってみればよいのです。喧嘩をするときの言い訳に多いのは、「○○ちゃんが悪い。」など、相手を悪く言う言い方です。相手が自分を悪く言うのは、自分にも悪いところがあったからです。それにも悪いところがあったとき、人は謝ることができます。戦争も同じです。相手がすべて悪いわけではありません。自分たちの悪いところにも目を向けるのです。そして、相手がいくら悪いと思っても、それを子どもたちの前では口にはいけません。子どもたちにとって、信用できるのは親である「大人」なのです。その大人が子どもたちにとってよい見本にならなかつたら、他に誰が子どもたちの見本になるのですか。

明日、この世界がどうなっているかは誰にも分かりません。平和な世界が訪れるのか、日本に原子爆弾が落とされるのか、あるいは、誰もが想像しないような何かが起きるのか。その「何

か」が、世界をよくしてくれるものだと私は願っています。

記憶を 繋いでいくために



下稲吉中学校 3年
岡島 恒太郎

みなさんは、六年前の東日本大震災と、その直後の津波のことを、どのくらい覚えていますか。今、被災地では、後世に津波の恐ろしさを伝えるために、損壊した建物を保存するべきだという意見と、津波の恐ろしい記憶をいつまでも引きずりたくないという思いや、建物に維持費がかかるといったことから、取り壊して欲しいという意見があります。

僕は震災が起こった年の夏休みに、家族と一緒に宮城県を訪れました。父が自分の国で起きたことだから、見ておくべきだと言ったからです。そこで見た光景は、今でもはっきりと頭に残っています。流されてきた大型バスが屋上に乗った、骨組みだけの建物。今にも崩れそうな、柱だけになった家。根元からひっくり返っているビル。あちこちに横たわる、がれきの山。

窓が全部壊され、床や廊下にランドセルやテレビやパソコンが泥をかぶって転がっていた小学校。津波の後に襲った火災によって、学校は真っ黒に焼けていました。昼ご飯を食べたお店の窓ガラスにくっつきと残っていた、津波が到達した跡も、目に突き刺さりました。そのとき僕は、ここは普段生活している世界とは、違う場所なのではないか、と思いました。あの光景を見た人は、きっと、ずっと忘れることはできないと思います。

あの震災から六年が経ち、ニュース番組や新聞で、被災地が少しずつ復興し、人々の暮らしも良くなりつつあるというのを見聞きするようになりました。長く続いた震災の影響がようやく弱まってきたことはとても嬉しいことだと思います。一方で、震災で残った建物の取り壊しを決めた自治体があること、また同時に、個人的に被災した自宅を保存し、公開している人がいることを知りました。

僕は、震災遺構を積極的に残すべきだと思います。なぜなら、実際に自分の目で見ることによって、とても強い印象が残るからです。

広島県には、原子爆弾の恐ろしさを後世に伝えるために、原爆ドームが残されています。今では、日本だけでなく、世界中からたくさんの方が原子爆弾の被害について学びに、広島を訪れます。もし原爆ドームが取り壊されていたら、核兵器の恐ろしさについて、多くの人が知る機会が失われていたことでしょう。

確かに、震災で津波の被害を受けた

人や、身近な人を亡くした人にとって、それらの建物を見ることは、とても苦しく悲しいことだと思います。それに、建物を維持するには多額の費用がかかると聞きました。

しかし、一度取り壊してしまつたら、震災の爪痕を後世に残すことが二度とできなくなってしまうです。そうやってしまえば、時が経つにつれて、人々の震災の記憶が風化していつてしまうかもしれません。

そこでもう一つ疑問が生まれてきました。遺構そのものだけを残せばよいのかということです。例えば広島や長崎では、原爆記念日があり、毎年式典が行われています。国内だけでなく海外からもたくさんの方が参列し、その様子が報道され続けています。東日本大震災の場合は、当初は連日のように被害状況がメディアに取り上げられていました。しかしその後、そういつ



言葉の大切さ

霞ヶ浦中学校 3年
長島 舞

報道は年を追うごとに減っていきました。せっかく残した震災遺構であっても、誰も注目しなければ忘れ去られてしまいます。ただ残った建物を保存するだけではなく、資料館や記念館を作って、震災の記録や被災した人々の記憶を保存することで、津波の恐ろしさや防災の大切さを人々に伝え続けることができるのではないのでしょうか。いつかまた、大きな地震がどこかで起こるかもしれません。その時に、東日本大震災のことを知っていたことで、助かる命があると思うのです。

皆さんは、なんの気なしにひどい暴言を使ってしまったことはありませんか？

「死ぬ、アホ、消えろ」など、言っている本人は軽い冗談、軽い気持ちで言っているかもしれませんが、言われた人は深く傷つくものです。

例えば、一番信頼している友達と大ゲンカして、「消えろ」などと言われたとき、あなたはこう思いますか。きっと、がっかりして失望してしまうので

しょう。あるいは、本当に消えてしまいたい。そう考える人もいるかもしれません。言われた人にとって、この暴言は、深く心に突き刺さりります。

では、あなたが友達と大ゲンカして、「消えろ」などと言ってしまったときはどうでしょう。きっとそのときは、相手に対して怒りをぶつけ一時的にスッキリしますが、言ってしまった後、きつと後悔するのではないかと思います。

しかしそんな中で、最近では日常的に暴言を耳にすることも増えました。例えば、クラスの友達同士がふざけたり、おもしろがって、暴言を言い合ったりするなどです。私も実際に言われたことも、言ってしまったことも多々あります。しかしこの場合、言った方も言われた方も、特別つらいといった感情はあまりないと思います。

では、どのような違いからこのようなことが起きるのでしょうか。それは、そのときの状況や雰囲気、表情や口調が影響してくるのではないのでしょうか。文字だけでやりとりされている手紙やメールでは、相手の表情や口調がわからないからこそ、もつと難しくなってくるのではないのでしょうか。現在世界中で使われているスマートフォン。これが代表的な例です。皆さんもご存知のとおり様々なSNSを使ってチャットや通話が無料で楽しめる、とても便利なものです。現在の中・高生もこのスマートフォンで連絡を取り合うなど利用している人が多くいるはずです。基本は文字だけのやりとりが中心で、たまにスタンプを使うぐらい

だと思っています。しかし、文字とスタンブだけでは、雰囲気を感じ取りと伝えるのは難しいことです。自分は軽い気持ちで言ったのに、なんだか真剣に受け止められていたり、逆に勘違いをして嫌な気持ちをしたり。相手の顔が見えず、口調が分からないことが原因で大きな誤解を招いたり、「いじめ」を生んだりしてしまう可能性があるかもしれません。

SNSなどは、スピーディかつリアルなコミュニケーションツールです。そのため、実際に会っているかのような感覚でやりとりができ、自然と距離が近づくように感じます。相手とこの距離感でやりとりするときは、空気を読むということを心がけてみるのもいいかもしれません。こうした文字だけのコミュニケーションツールで共通して必要となってくるのが、文脈や行動を読む力だと思っています。物事を様々な視点から捉え、あまり深く考えすぎないということも、私たちが大人になる上で大切なことになるのではないのでしょうか。さらに相手があまりにもひどい時には先生や友達に相談して良い対処法と一緒に考えるのも良いかもしれません。

最後に、暴言やかげ口を言い相手に深く傷つけている人へ伝えたいことがあります。

あなたがそれを言い相手を傷つけることで、あなたにメリットはありませんか。相手にメリットはありますか。今日からでもいい。今からでもいい。自分の使う言葉を強く意識して、相手におくる言葉をしっかりと選んでほしい。

もっと大切に、もっと大事に。言葉は世界を変える、言葉は未来を変える、言葉は私たちを変える。私たちならきつと変わるはずです。

言葉を人を傷つける刃物として使うのではなく、人を優しい気持ちにするものとして使ってほしいと思います。きつと私たちが見る世界が、もっと明るくなるはずです。

かけがえのないいのち
たった一つの生命千代田中学校 3年
竹井 二葉

みなさんは、自分の生命はもちろん、友達や家族、周りの人の生命を大切にしていますか。生命というのは一つしかないものです。

今から約六年前にあった東日本大震災をみなさんは覚えていますか。この茨城県もたくさんの被害を受けたと思います。この頃、私は岩手県の陸前高田市というところに住んでいました。陸前高田市も、大きな被害を受けているところです。「奇跡の一本松」でも有名になりました。

あの震災は、私が小学二年生の時に起きました。揺れの大きさにとても

びっくりして、泣いている友達も数多くいました。高台に避難する前に、家に帰っていく人もいました。私の親友は、「お母さんが来たから帰るね。バイバイ。」と言って帰っていききました。数日後、おばあちゃんに「新聞、見てみな。」と言われ、一ページずつめくっていききました。最後のページを見た瞬間、私は泣きました。「死者」のところに親友の名前が載っていたのです。親友の家族の名前も載っていました。私はずっとすすり泣きをしていました。あの日に会話したのが最後でした。親友は、誰にでも優しく接していて、みんなから信頼されている人でした。私は、親友と過ごした日々を思い出しながら考えました。自然災害って、こんなにも恐ろしいものなのだと。今も親友のことを思い出すと胸が痛くなり、悲しくなります。親友のお葬式には行けませんでした。手紙を書きました。「今まで、本当にありがとう。大好きだよ。君のこと、絶対忘れないから。」と書きました。

自然災害は、多くの生命を奪います。中には、頑張って逃げたけれど、津波にのみ込まれてしまった人、家から出ようとしたけれど、埋もれてしまった人など、生きたいと思っても、この災害によって生命を落としてしまう人がたくさんいました。だからこそ、校内で行っている避難訓練を真剣に行って、自分の生命を大事にしていきたいし、大事にしてほしいと思います。

また、私はかけがえない生命を守るために、将来看護師になりたいと思っています。

私は子どもの頃、入院していたことがありました。その頃の私は、注射が大嫌いで、毎回騒いでいました。すると、ある一人の看護師の方が、「注射を頑張ったら、一緒に遊ぼう。」と言ってくれたのです。この一言で、当時の私は心が落ちつききました。私は、この時の看護師さんのように、優しく、誰にでも寄り添える看護師になれるように努力し、一人でも尊い生命を救えるように頑張りたいです。患者さんの中にはもちろん、入院なんてしたくないという人が多くいるはず。自分の生命を守るために病と闘う患者さんを、精一杯支える看護師になりたいです。

私は中学二年生の時の職場体験学習で、とある病院に行かせていただきました。私が見学した病棟は、「脳神経内科」というところです。足が思うように動かせなかったり、脳に障害や後遺症が残っていたりする人が入院する病棟でした。患者さんにお話を伺うことができました。六十代の女性でした。その女性は、脳に後遺症が残っていて、片足がうまく動かせませんでした。が、「早く孫と遊びたい。だから頑張って治すんだ。」とおっしゃっていました。このように、自然災害で生命を落としてしまう人や、病気がかかって亡くなる人、あるいは、頑張って病気を治している人など、みんな長生きしたいという思いで生活しています。そのために、自分の生命は自分で守り、また、私は頑張って看護師になって、一人でも多くの人の生命を助けたいです。かけがえないたった一つの生命を大切にしましょう。

青少年育成を考えるつどい

第二部 講演会

「ゆれる思春期のこころ 子どもが安心できる環境とは？」

講師 茨城大学名誉教授

高輪心理臨床研究所

主宰 岸 良範氏



第2部の講演会は、岸 良範氏から、「子ども達が安心できる環境」というのはどういう環境なのかを、ご自身の体験を交えながらわかりやすく楽しくお話いただき、親として思春期の子どもへの接し方などを学びました。

平成29年度

『少年の主張茨城県大会』 主張文を募集しました

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「平成29年度少年の主張文募集」に市内3中学校から、52名の応募があり、学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。

タイトル	中学校名	学年	名前
伝統文化と現代文化	霞ヶ浦	3	桑原 真尋
言葉の大切さ	霞ヶ浦	3	長島 舞
明日を変えるもの	千代田	3	山口 結愛
かけがえのないたった一つの生命 ^{いのち}	千代田	3	竹井 二葉
入試制度からみえるもの	下稲吉	3	村田 実優
記憶を繋いでいくために	下稲吉	3	岡島恒太郎

研修会等へ参加しました

土浦地区

青少年育成市民会議連絡会研修会

平成29年12月16日（土）

土浦消防署本部及び小町の館



青少年健全育成茨城県推進大会

平成30年2月7日（水）

茨城県立県民文化センター



かすみがうら市

青少年相談員

連絡協議会

青少年育成に関する関心と理解を深めるための啓発活動や、環境浄化を推進することを目的とする様々な活動を行っています。

①巡回活動／青色防犯パトロール車にて毎月2回市内の施設や店舗を中心に巡回しています。また、ふれあい生涯学習フェア、かすみがうら祭などの市内で開催されるイベントでも巡回指導を行いました。
②あいさつ・声かけ運動／生徒が登校する時間にあわせ、市内3中学校であいさつと声かけを行いました。

③啓発活動／神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかけました。
④視察研修／青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、青少年関係施設を視察しています。今年度は、10月13日（金）に山梨県甲府市にある甲府少年鑑別所を訪問しました。施設内の見学や、「法務少年支援センター」としてのノウハウを活用した相談事業についてアドバイスをいただきました。

⑤店舗への訪問活動／コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。市内では現在31店舗にご協力いただいております。

⑥県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会／平成30年1月28日（日）にあじさい館にて、相談員の資質向上及び青少年の健全育成のため、また、石岡市・つくば市・土浦市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、日頃の活動に役立つ研修会を実施しました。



幹事市であるかすみがうら市で行われた第5ブロック研修会の様子



市内3中学校で行われた、あいさつ声かけ運動



神立駅前で行了れた非行防止キャンペーンの様子

市子ども会 育成連合会事業

親子つり大会



雪入川でのニジマス釣りの様子

平成29年5月27日（土）に上佐谷地区の雪入川で「親子つり大会」が開催され161名の親子が参加しました。今年度も当事業に青少年育成がすみがうら市民会議から経費の一部を補助しています。

初夏の日差しの中、和やかに釣りを楽しんだり、大きな獲物の獲得に奮闘する親子の微笑ましい姿が見られる楽しい1日となりました。

青少年心身 健全育成事業

ジュニア 和太鼓教室



かすみがうら祭で練習の成果を発表

市内の小学生3年生から中学3年生を対象に、かすみがうら市体育センターを会場に開催。14名の参加者が7月の猛暑の時期から練習を開始しました。あゆみ太鼓の方々の指導の下、バチの持ち方や構え方などの基本的なことから始め、7回の教室を経たのちに10月のふれあい生涯学習フェア、11月のかすみがうら祭では課題曲の「三宅島太鼓」を堂々とした姿で披露することができました。

高校生会の 活動



ふれあい生涯学習フェアへ参加

高校生会は今年度11名となり、ふれあい生涯学習フェアへのボランティア活動、KWC S事業の協力、あじさい館ホールのクリスマスツリー装飾等様々なイベントに参加し、意欲的に活動しました。今後の活躍も期待されます。

成人式典事業



市ふるさと大使のアントキの猪木さんによるオープニングアクト

平成30年1月7日（日）千代田公民館講堂にて、平成29年度成人式典が行われました。319名の新成人が出席し、懐かしい友との再会に喜び、この日の思い出と未来への希望を胸に、これまでの20年間培った経験とこれから始まる新しい道に向かって歩み始めました。青少年育成かすみがうら市民会議からは記念品とオープニングアクトへの協賛を行いました。



KwCS

かすみがうら市 ウィークエンド・コミュニティー・スクール事業

市内に住む児童・生徒を対象とし、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって実施する事業です。

今年度は、リーダー研修会、夏休みの体験教室、ふれあい生涯学習フェアでの体験教室、クリアキャンドル作成（かすみっ子まつり）、スクイーズ作成等の事業を実施し、延べ 355 人の参加がありました。

Enjoy!

リーダー
研修会



夏休み
絵画教室！



ジオパーク見学
&
木のウチワ作り



ぷにっと
スクイーズ
づくり



縄文式
あみもの
づくり体験



勾玉づくり
体験



かすみっ子
まつり



ふれあい生涯
学習フェア



青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷 3719-1
TEL.029-897-0511 FAX.029-898-2965

発行日：平成30年3月16日